

日本赤みえ



2018年度

特集

西日本豪雨災害被災地 広島県呉市へ
「医療救護班」と「こころのケア班」を派遣



日本赤十字社三重県支部創立130周年記念 ～支部創立130周年に向けて～

日本赤十字社三重県支部は皆さんに支えられながら、明治22年「三重県委員部」として設立され、2019年10月19日に創立130周年を迎えます。これを記念して「日本赤十字社三重県支部創立130周年記念事業」を行います。

「日本赤十字社三重県支部創立130周年記念式典」

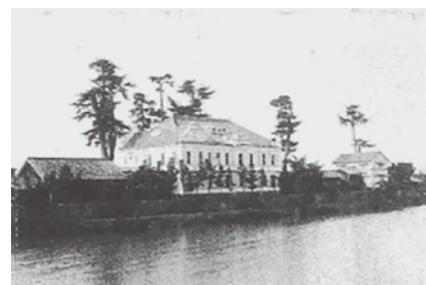
開催日(予定) 2019年10月19日(土)

開催場所(予定) 三重県総合文化センター「多目的ホール」

「赤十字の誕生と活動展」

開催日(予定) 2019年10月19日(土)～11月4日(月)

開催場所(予定) 三重県総合博物館(MieMu)



空襲で全焼した三重県支部の旧社屋

西日本豪雨災害被災地 広島県呉市へ 「医療救護班」と「こころのケア班」を派遣



「医療救護班」
伊勢赤十字病院 竹野 祐輔 主事
平成 30年 7月 15 (日) ~ 7月 19日 (木)

様々な医療チームが現地で活動していますが、その中でも日赤救護班・こころのケア班の強みは何ですか？

竹野 一番の強みは、日赤が百年以上救護活動を続けてきたという実績ですね。この赤い救護服で被災地に行くと「あ、赤十字さんが来てくれたんや」と被災者の方が心を開いてくださり、スムーズに医療活動を進めることができます。

中井 全国規模で救護班・こころのケア班が組織的に展開されるので、チームが交代しながら継続的に被災者のケアができます。被災者の方の体の調子や困っていることを伺うことも大事なこころのケアなのですが、赤十字というシンボルによって自然に被災者の方に受け入れていただけるところが強みですね。

現地ではどんな支援が求められていましたか？

竹野 当班は、避難所内の救護所での診療を依頼されていました。しかし、交通機関がマヒした現地では、単独で移動できないご老人を診療所まで連れて行ってほしいなど、現場でのさまざまなニーズがありました。本来の診療に差し支えない範囲で、可能な限りのことをしてまいりました。



中井 こころのケア班の2班目として活動しました。まずは被災された方や現地の支援者の方々の具体的な困り事を把握し、可能な支援を検討していくことが特に大事な時期でしたね。被災されたお子さんのストレス反応や関わり方についてのご相談を受けることもありました。



被災した子どもたちとの接し方について
小学校の先生にアドバイスをする中井臨床心理士



「こころのケア班」
伊勢赤十字病院 中井 茉里 臨床心理士
平成 30年 7月 22 (日) ~ 7月 27 日 (金)

救護班・こころのケア班の使命とは何ですか？

竹野 大規模災害発生直後に医療救護が必要とされる被災者へ迅速な手当てが実施できるよう、私たちは、いかなる状況下においても、全力で被災者の命を守ります。それが、赤十字の職員としての使命であると考えています。

中井 日赤こころのケアチームのケアの対象は被災地にいる全ての方です。なるべく多くの方に心身のケアを提供し、生活の援助をしながら、さらに専門的なケアを必要とする方を見逃さずに災害派遣精神医療チーム(DPAT)などの専門的なチームに繋げるということも大切な使命ですね。

「平成 30年 7月豪雨災害」義援金にご協力ありがとうございました。今後も引き続きご支援をお願いします。

平成 30 年台風第 7 号および前線等に伴う大雨災害で被災された方々を支援するため、日本赤十字社では現在、義援金を受け付けております。平成 30 年 9 月 14 日時点で 117 億 8,531 万 4,381 円を全国の皆さまからご協力いただきました。ありがとうございました。

日赤は今後も引き続き義援金を募集していきます。皆さまの温かいご支援をよろしくお願いします。

赤十字奉仕団が岐阜県関市で災害ボランティア活動を実施

西日本豪雨で被害を受けた岐阜県関市上之保地区において7月11日に赤十字奉仕団員10名と職員3名が、災害ボランティア活動を行いました。同地区は、8日未明に津保川の氾濫により、多くの住宅で浸水などの被害を受けました。奉仕団員等は猛暑の中、午前10時から午後3時までの間、残土処理、家財撤去などを行いました。被災者の方からは「赤十字奉仕団の人たちに来てもらってとても助かった」という感謝の言葉をいただきました。

今後も、赤十字奉仕団は義援金の街頭募金活動など様々な場面で被災地の支援を行っていきます。



浸水した家屋の残土処理をする赤十字奉仕団員



地域で赤十字救急法等講習をご活用ください

三重県支部では、人々が安全で健康な生活を送ることができるよう、県内各地で救急法等講習を行っております。また、地域の防災訓練やイベントにおいて非常食の炊き出しと、救急法や災害時高齢者支援講習をあわせた防災講習も実施しております。是非ご活用ください。

(平成29年度受講者数延べ16,646名)



救急法講習



災害時高齢者支援講習

北海道胆振東部地震災害 日本赤十字社の対応

平成30年9月6日に発生した北海道胆振地方中東部を震源とする最大震度7の地震により、北海道に大きな被害が出ました。

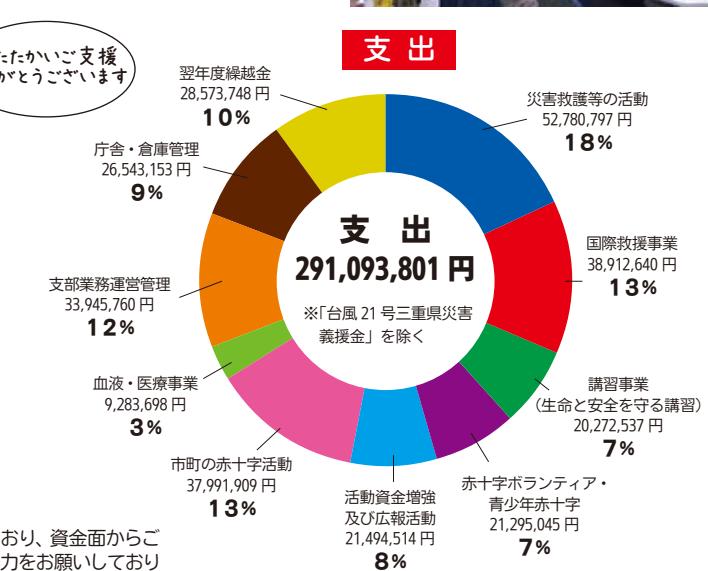
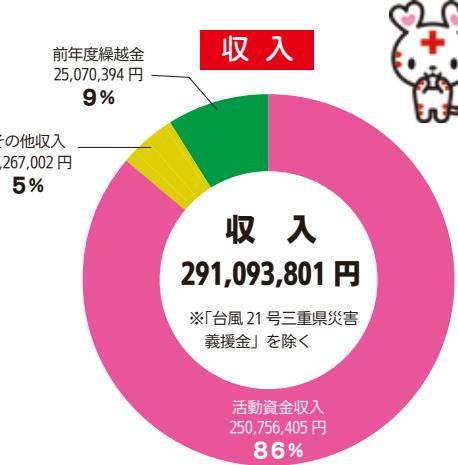
日本赤十字社では、日赤DMAT10班・救護班43班・日赤災害医療コーディネートチーム12班が現地で活動を行い、9月20日に活動を終了しました。(日赤DMATは9月11日に活動を終了)また、こころのケア班は39班が活動を行い、10月12日に活動を終了しました。この災害で被災された方々を支援するため、義援金を受け付けております。皆さまの温かいご支援をよろしくお願いいたします。



日赤三重県支部の活動資金にご協力いただきありがとうございました

平成29年度収支報告

支部・管下施設の平成29年度収支決算については、6月5日に開催された平成30年度第1回評議員会において審議の後、承認されました。県民の皆さまからの温かいご支援により、平成29年度も赤十字活動を展開することができました。心より感謝申し上げます。



■赤十字の活動資金について

赤十字が行う人道的な活動は、すべて皆さまのご支援により支えられており、資金面からご協力いただく方を「会員」とお呼びして、目安として年500円以上のご協力をお願いしております。その中で年2,000円以上ご協力いただける方々は、赤十字の運営に参画する支援者として登録させていただき、表彰の対象とするほか、機関紙「赤十字NEWS」を送付します。

※赤十字病院、血液センターは施設ごとの特別会計になっており、この決算には含まれていません。

「台風21号三重県災害義援金」受付状況 受付金額 23,584,739円

お寄せいただいた義援金は、被災状況に応じて按分され、全額を被災された皆さまにお届けしました。

引き出す！子どもの対応力 幼少期から防災教育を

10月29日に青少年赤十字加盟校の明和ゆたか園が5歳児27名を対象に防災教材「ぼうさいまちがいさがし きけんはっけん！」を用いた防災授業を実施しました。

シートのイラストを見ながら、園児たちは先生の質問に対して災害時の危険な場所やとるべき行動について発表し、「地震の時は、棚が倒れてくるから近寄らない」など具体的な行動について学びました。

また、授業を終えた園児は「地震が起きたら、すぐに机の下に隠れる」と災害時に自分の命を守ることについて意識を高めました。



災害時の危険について発表する園児



「ぼうさいまちがいさがし きけんはっけん！」について

本教材は、日本赤十字社とNPO法人プラス・アーツが協働で開発をしました。東日本大震災等の大規模

災害から得た「人を助けるために、まず自分自身が生き延びることが大切」という教訓をもとに製作。災害時にとった行動の結果がどうなるかということまでわかるので、「なぜ」その行動をとるのか、その行動をとらなかつたらどうなるかわかるという点が大きな特徴です。日赤は、子どもたちが自然災害に対する正しい知識を持ち、自ら考え、危険から身を守ることができるよう、各園で防災教育を普及いただく目的で本教材を8月に三重県内の青少年赤十字加盟登録幼稚園・保育園75園に無償で配布しました。

赤十字イベントのお知らせ

第2回救急法競技大会を開催します！

昨年度に引き続き今年度も救急法競技大会を開催いたします。

日頃の訓練の成果を競いませんか。
仲間を集めてぜひご参加ください。



昨年度の救急法競技大会の様子

日 時 平成31年1月27日(日)
10:00～15:00

会 場 セントヨゼフ女子学園高等学校・中学校(津市半田1330)

募集締切 平成30年12月17日(月)

詳しくは日本赤十字社三重県支部HPをご覧ください。

あなたにも救える命があります 「はたちの献血キャンペーン」

日 時 平成31年1月～2月まで

会 場 未 定

※決定次第第三重県赤十字血液センター
HPなどでお知らせ



内 容 献血者が減少しがちな冬期において安全な血液製剤の安定供給を確保するため、学生ボランティアが、新たに成人式を迎える若者を中心に献血会場で献血の大切さを啓発します。



主 催 厚生労働省、都道府県、日本赤十字社

赤十字ボランティアに参加してみませんか

ボランティア宅本便 日本赤十字社 ご家庭で不要な本などを赤十字へご寄付ください

ご自宅に不要になった本、CD、ゲームソフトなどはありませんか？もし、それを捨ててしまうならば、ぜひ誰かの笑顔のために役立ててください。ブックオフのご協力のもと、お売りいただいた古本などの代金が日本赤十字社三重県支部の活動のために寄付されます。

ご協力方法

日赤三重県支部HP内のバナーをクリック、もしくは日赤三重県支部HP内の「ボランティアに参加したい」をクリックの上、専用のFAX申込様式をダウンロードしてください。お申し込みが完了しましたら、ブックオフがご自宅などへ集荷に伺います。

例えばコミック・マンガ30冊・CD5枚をお売りいただくと、日赤が被災者に配分する毛布1枚に変わります。

※ブックオフ買取平均価格を参考。

1,300円



赤十字奉仕団員募集中！

日本赤十字社の活動は、全国のボランティアによって支えられています。三重県支部では6,405人の赤十字奉仕団員が、ボランティア活動を通じて赤十字の人道的活動を実践しています。

あなたも“困っている人、苦しんでいる人の役に立ちたい”という思いを行動に移してみませんか？

赤十字ボランティアへのご参加・ご登録は、三重県支部組織振興課までご連絡ください。



いざという時に備えて、日頃から炊き出し訓練を実施



日本赤十字社 三重県支部
Japanese Red Cross Society

日赤みえ 発行元/日本赤十字社三重県支部
〒514-0004 津市栄町1丁目891番地 TEL 059-227-4145 FAX 059-227-6245
<https://www.mie.jrc.or.jp/>

